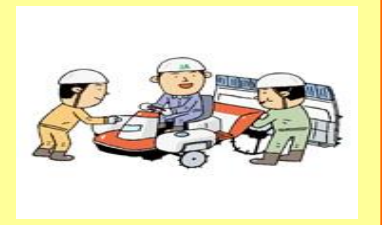


2019年コシヒカリ栽培こよみ

みな穂農業協同組合
黒東地域農業技術者協議会

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	健全な土づくり 4/16 4/25	5月15日中心の田植え 5/15	適正な茎数への誘導 6/15	畦畔の草刈り（一斉草刈り） 7/13	病害虫防除 適切な水管理 8/4	適期刈取と丁寧な乾燥調製 9/13	次年度に向けて秋耕
生育ステージ	浸種期 催芽 播種期	田植期 活着期 有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期 穂ばらみ期	出穂期 登熟期	成熟期	
水管理等	土づくり 耕起	代かき 深水管理 浅水管理	溝切 中干し 間断かん水	飽水管理	湛水管理（20日間）	間断かん水（刈取前5～7日まで）	土づくり
作業	 発酵ケイフン・堆肥などの有機質資材積極的に施用しましょう！	 作業開始前には・・・整備・点検をしっかりと行いましょう	 溝切は軽く田干してから行いましょう！	 安全作業で、適度な休憩と水分補給を	 適期に確実にいきましょう	 丁寧な調製！仕上げ水分14.5～15.0% 適期刈取りと適正な乾燥調製を	 秋耕で稲わらの腐熟を促進！
ポイントチェック	☐ 珪酸質資材の施用 ☐ ゆっくりと耕起 ☐ 15cm以上の作土深の確保 ☐ 有機質資材の施用 春施用の場合 堆肥1トン 鶏ふん75kg	☐ 田植えは5月15日中心 ☐ 栽植密度70株/3.3㎡ ☐ 植付本数3～4本/株 植付深さ3cm ☐ 浅水管理による初期生育の確保	☐ 田植え後1ヶ月頃溝切りと中干し徹底 ☐ 中干し後の間断かん水 ☐ 6月20日頃の間断追肥施用	☐ 畦畔の草刈りの徹底 ☐ 幼穂形成期以降は飽水管理 ☐ 葉色、生育量に応じた穂肥の施用	☐ 出穂期直前・穂揃期での本田防除 ☐ 出穂後からの20日間の湛水管理の徹底 ☐ 水のかけ流しは行わない	☐ 刈取り5日～7日前までの間断かん水 ☐ 籾黄化率85～90%での適期刈取り ☐ 玄米水分14.5～15.0%の徹底 ☐ 栽培記録簿・GAPチェックシート提出！	☐ 害虫多発地区は徹底！ ☐ 珪酸質資材の施用 ☐ 有機質資材の施用 秋施用の場合 堆肥1～2トン 鶏ふん150kg
施肥	pH6.0～6.5を目標に！ シリカパンチF 120kg + アサヒニューテツ 160kg 珪酸石灰 160kg + 苦土重焼燐 20kg	一発体系 コシヒカリ1号/2号 38kg/10a (側条) 分施体系 基肥206 30kg/10a (側条) 中間追肥 イスアイ加里くだ 15kg/10a 一発肥料の方も生育量を見て施用の必要性があれば施用 出穂7日前に葉色が3、8以下と淡い場合 施用時は地区の指導員までご相談ください。	穂肥 追肥3号 1回目 2回目 10kg/10a 12kg/10a 分施体系施肥量	しっかり葉色診断！！ 濃い葉色 適正な葉色 1回目は慎重に。2回目は確実に！	継続的な施用！ 珪酸質資材は継続的に。有機質資材は積極的に！		
農薬防除	除草剤と間違えない！ 播種同時処理 又は 田植3日前～当日 50g/箱 紋枯病多発地では・・・ エパーゴルワイド箱粒剤の施用を検討しましょう	一発処理 体系処理 田植後5日～10日 田植え開始 田植当日～4日 田植後11日～20日 又は 田植後20日～30日	取こぼした雑草には ノビエ類 広葉雑草 本田防除 出穂期直前 穂揃期 いもち病 紋枯病 カメムシ類 いもち病 カメムシ類	～Good Agricultural Practiceで、安全・安心な稲米を消費者に～ 良い 農業の 実践 しっかり記入！ 栽培記録簿・GAPチェックシート記帳徹底！			